

# 北海道の大地にて

～平成24年度鶴田町議会常任委員会合同視察研修報告～



視察先 北海道中川郡池田町および釧路市  
期 間 平成24年8月22日（水）～24日（金）  
参加者 （総務経済）一戸豊、太田良一、神秀次郎、  
北谷正則、下山勝明、出町豊  
（教育民生）澁谷光正、小関優、花田正逸、  
松山明、新谷賢剛（以上11名）

・釧路市湿原展望台から望む「釧路湿原」

今回の研修は、総務経済と教育民生の2つの常任委員会が合同で実施し、池田町のワインによる地域づくりと釧路市の丹頂鶴自然公園を釧路市丹頂鶴自然公園名譽園長高橋良治氏同行のもと視察してご報告いたします。

〔北海道中川郡池田町〕

池田町は十勝平野の中央やや東寄りにあり、畑作や酪農などの第一次産業が主産業の町です。池田町のワインづくりは、40数年前、当時町長であった丸谷金保氏（のちに参議院議員で名誉町民）が、地域に自生する「山ブドウ」に着目したことから歴史が始まりました。

た。「ワイン造りはブドウ作りから」と「農業振興」を進めていき、1960年に町内の農業青年によるブドウ愛好会を結成、1963年には果実酒類試験製造免許を取得して、国内では最初の自治体経営によるワイン醸造を手がけました。山ブドウから造られた「十勝アイヌ葡萄酒」は、1964年の第4回国際ワインコンペティションで銅賞を獲得し、1974年には「十勝ワインアムレンシス1972」を発売して好評を博したことがその後の全国的なワインブームを呼び起こすきっかけとなったといわれています。

ただ、アムレンシスは山野からほ場に移植した樹のブドウから造られるために、原材料の確保が不安定で、2013年に1度ぐらしか仕入れないという難点がありました。

そのため、池田町では200種以上の醸造用品種を世界から導入し、地域で栽培出来る品種を育種試験したのですが、なかなかこの地域に適した品種は見つかりませんでした。

十勝はその寒さのため、ブドウの育たない土地ということもあつたようです。それは、ブドウのような果樹が地上に枝を伸ばすものは、冬期間の極低温に加え、雪の少ない十勝の乾燥した風にさらされると越冬芽もブドウの枝梢も枯れてしまうということでした。

そこで池田町では、寒さと乾燥からブドウを守るため、冬期間は

ブドウを土の中に埋め、春には培土した土を取り除くといった栽培方法をとっており、他の栽培地域にない相当な手作業と厳寒地ならではの労苦があるということでした。

このままでは、安定したワイン製造が出来ないということもあり、独自品種の開発にも取り組んできました。

独自品種の開発として、ブドウの木は1000本に一本の割合で突然変異を起こし、たくましく実をつけることがあるそうで、この「枝変わり」の技術を用いて、5シーズンかけて枝梢の登熟が良く、課房も密着で豊産性の赤ワイン品種「清見種」を誕生させました。北国ならではの豊かな酸味と軽快な味わいは、十勝ワインの代名詞として多くのファンに愛される存在となっているそうです。

先ほども述べたとおり、冬の前には培土して、春芽が吹く前には排土する。池田町でブドウ栽培を広

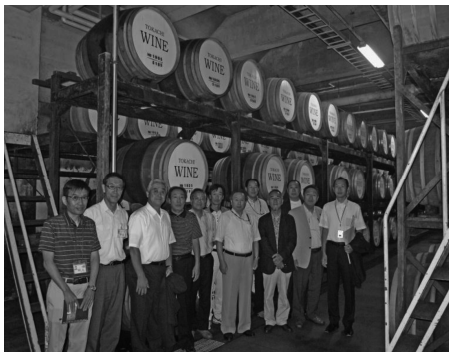


池田町ブドウ・ブドウ酒研究所研修室にて

める上で、これが障害となつていくというところで、この作業をなくすために町では、寒さに強い「山ブドウ」の特性と、その「山ブドウ」と醸造用品種の交配により、耐寒性が高く、かつワイン用として高品質のブドウの開発を目的に、これまで2万1000種を交配してきており、独自品種である「清見種」と「山ブドウ」の組み合わせから出来た品種である「清舞種」は平成12年に「山幸種」は平成18年に農水省に品種として登録されました。これらの品種は耐寒性に優れ、培土しなくても越冬出来ることから栽培しやすく、この新品種の誕生で町内のブドウ生産者の期待が膨らんでおり、当初の目的である「農業振興」への道が一步步前進しはじめていくとのことでした。

町営事業である十勝ワインは、単に町がワイン事業を営むだけでなく、町民の方々も強く関わっており、町内の中学校では、授業の一環としてブドウ収穫やその説明を行って、町の産業を学ぶ機会を設けたりしています。また、池田町の成人式では、自分の生まれた20年前のワインで乾杯し、成人式の記念品は自分たちが中学生時代に収穫したブドウから造られたワインが贈られるそうです。

このことは、鶴田町のおいても町の特産品であるリンゴやスチューベンブドウを使い、中学生に農業の一部作業を体験させるといったことを進めてもいいと思われま



・地元のワイナリー地下熟成室にて

す。地域を支えている産業を体験させ、そのことが後の新しい担い手の基にもなるのではと思われる。

1966年に特別会計として「池田町ブドウ・ブドウ酒事業会計」を立ち上げ、1968年には企業会計として独立採算の道を歩んできており、これまでに520億円を超える売り上げを記録し、その利益は文化ホールや体育館建設に費用を繰り出したり、学校給食費の補助やPTA会費の無料化も実施されてさまざまな形で町づくりに活かされてきているとのことでした。また、これまで一般会計や他の会計に繰り出した総額は約20億円で、現在も利益の一部を一般会計に繰り出すなど、ワインの収益は池田町の町づくりに活かされているそうです。

「農業振興」というこの事業の目的であるこのブドウ作りは、ブドウ栽培の適地でない極寒の町で「ワイン造りはブドウ作りから」と

いった考えを基本に、ブドウ作りを農業の一角に定着させようと、町内でのブドウ生産の奨励や技術指導に取り組み、また、町営のほ場での耐寒性交配品種などの新品種の開発は現在も続けており、ワイン作り、ブドウ作りを定着させる努力をし続けているとのことでした。

長い目で見てどのようなにして町づくりを進めていくか、このことは池田町から多いに学ぶことがあり、と思います。

#### 〔北海道釧路市〕

釧路市では、毎年町の実年式で講話をしていただいている、釧路市丹頂鶴自然公園名誉園長の高橋良治氏が同行してくださる視察研修する事が出来ました。

この釧路市丹頂鶴自然公園の沿革は、乱獲や開発により本州はおよそ北海道でも姿を消してしまつたタンチョウが、大正13年に釧路湿原にわずかに生き残っている事が判り、この地域が禁猟区と国の保護政策区域となりました。その後、昭和10年に釧路湿原の一部とタンチョウが国の天然記念物に指定されたことに伴い、地元の人々によって「釧路国丹頂鶴保護会」が結成されました。そして、昭和32年に保護会は、タンチョウの保護増殖を目的とした鶴公園建設計画を決め、「丹頂鶴自然公園建設期成会」を結成して官民挙げての建設に取り組んだことが始まりとなりました。昭和33年には、5羽の

タンチョウを放鳥して鶴公園が開園し、翌年には建設期成会より釧路市に寄付移管され、現在の丹頂鶴自然公園として発足しています。

その鶴公園開園と同時に管理人となった方が今回同行してくださった高橋良治氏でした。

現在、釧路市丹頂鶴自然公園の名誉園長である高橋先生は、23歳（昭和33年）の時に鶴公園が開園。それからは寝食を忘れてタンチョウの世話に明け暮れ、また半世紀以上にわたってタンチョウの保護に取り組んできた、タンチョウ飼育のパイオニアといわれています。

世界初の人工ふ化と育雛を成功させ、幼鳥を自然界に返すという難事業を成功させました。タンチョウの習性や行動については、当時はまだ研究が十分でなかったこともあり、先生自身が体当たりで得たタンチョウの習性・行動の記録は貴重なものとなっています。

昭和27年には、国内で33羽と絶滅の危機にあったタンチョウは、今では、1000羽を超えるほどにまで回復しており、これも高橋先生の人生をかけた挑戦と試練があったからだと思います。

当日は、予定より1時間以上も早く公園に到着したこともあり、公園だけでなく他のルートでタンチョウや北海道の自然を視察することができました。

その釧路市丹頂鶴自然公園は、管理棟・レクチャールーム・展示室などがあり、見学および学術的施設としても充実しています。当



・釧路市丹頂鶴自然公園 ・高橋先生を囲んで釧路湿原国立公園にて

然公園内ではタンチョウが放飼されていますが、当町のように全面柵や網で保護されているわけではなく、四方に柵がある状態でした。

高橋先生には、バスに同乗し、行く先々で説明や案内をしてもらいました。また、事前に何か所か餌をまいておき、自分が野生に返したタンチョウを呼んでくれていたところに行きましたが、当日とても暑い日だったため、なかなか見ることができず、1か所のみ遠くから見ることができました。その後、釧路市湿原展望台を案内していただき、展望台から「釧路湿原」を目の当たりにすることで北海道の雄大さを感じることができました。

鶴田町に縁がある高橋先生が同行し、随所で丁寧に案内していただいたことで、北海道を身近感じの貴重な視察となりました。

#### 【広告】

あれもこれも欲しいもの……一人占め。『工場直売』だからできるこの価格！

**大バーゲン**

トレーナー・Tシャツ  
オリジナル商品 etc

このチャンスをお見逃しなく！



12/1 (土) 13:00~20:00  
12/2 (日) 9:00~15:00

(株)ニチバクオックス

五所川原市元町98 TEL0173 (35) 4106

**がんばろう青森！**

**青森りんごは元気の源！**



(株)津軽りんご市場

〒038-3684 青森県北津軽郡板柳町大字三千石字二湯21-3

TEL0172(72)1211 FAX0172(72)1229

ホームページ <http://tsugaruringo.jp/>